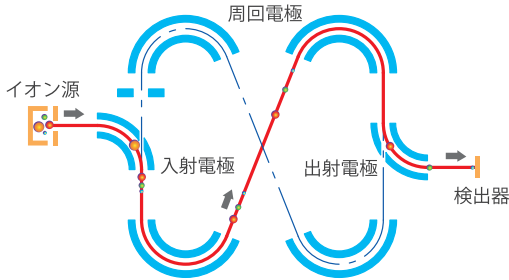


リニアモードとマルチターンモードの使い分け

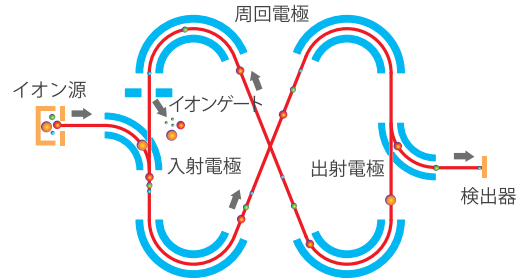
マルチターン方式飛行時間型質量分析装置 infiTOFの分析部では、イオンが周回軌道を任意の回数 周回します。周回部の前にはイオンゲート (ディフレクター) が設けられており、測定する m/z 範囲に対応したイオンを自動的に選択して周回軌道に通します。このinfiTOFの特長を利用して、未知試料の分析は下記の流れで行うと効率的です。

1. リニアモード

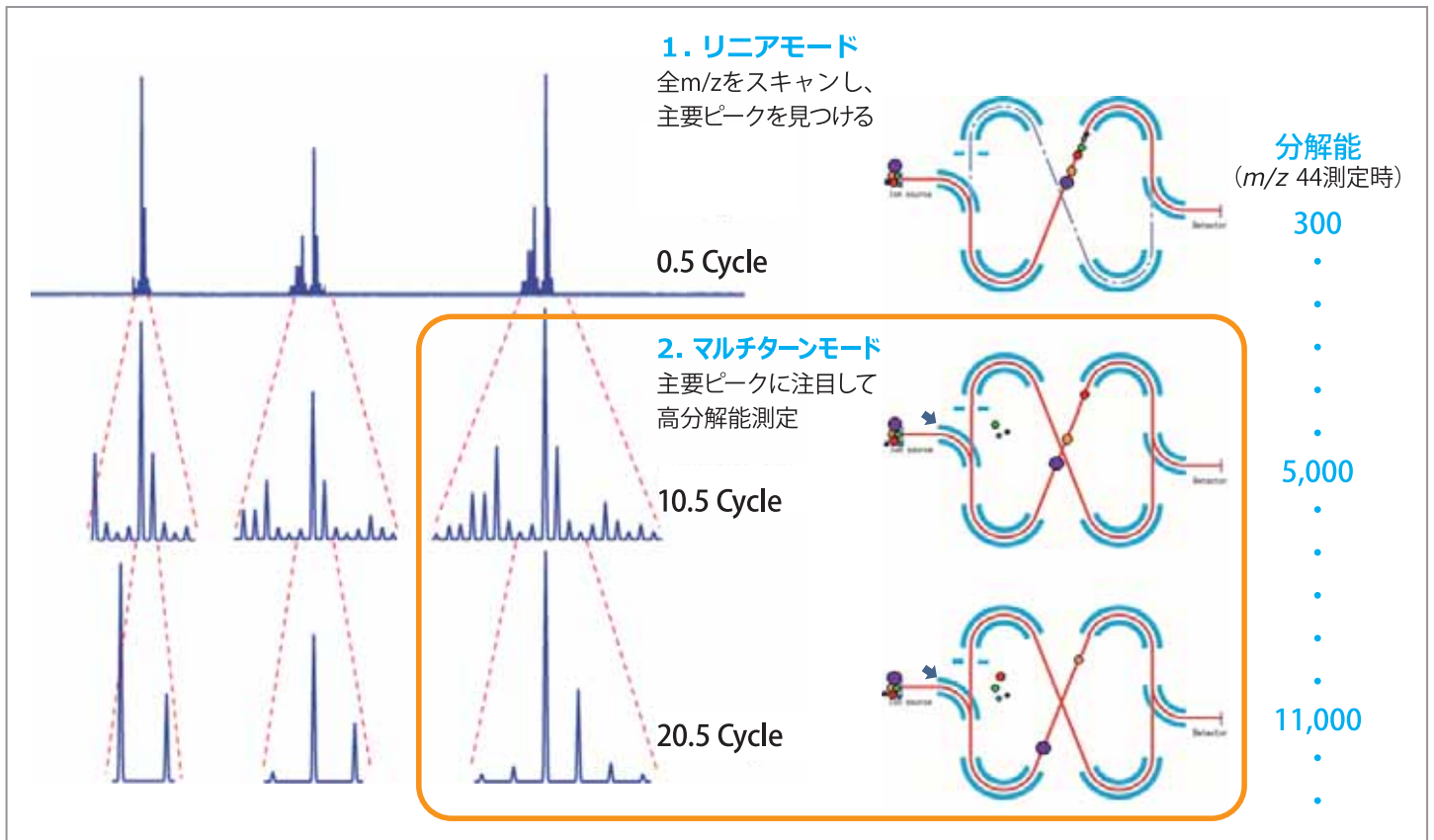


0.5周で全 m/z をスキャンします。低分解能測定となりますが、主要ピークを見つけることができます。

2. マルチターンモード



主要ピークに注目し、その近辺の m/z 範囲に絞って高分解能測定を行い、精密質量を求めます。



主要ピークに注目してマルチターンモードで測定することで m/z の範囲が絞られ、解析の効率が上がります。また、パソコンへ保管する際のデータ容量を大幅に削減できます。必要に応じ、全 m/z 域を高分解能で測定するモード (Extended mode) も選択可能です。